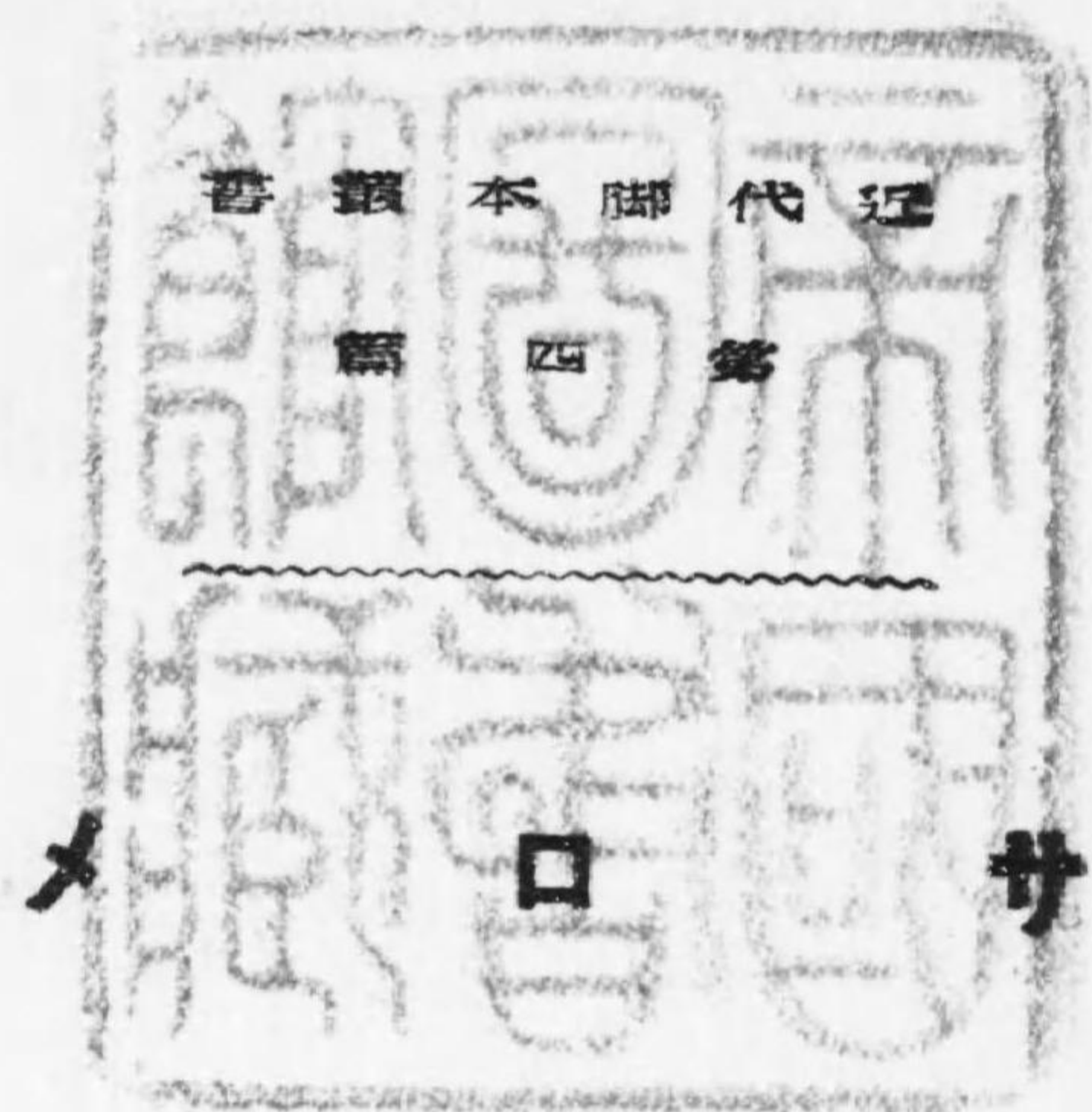


始



特109

843



作 ドルイワ  
譯 蘭紫月若

社 代 現

京 東

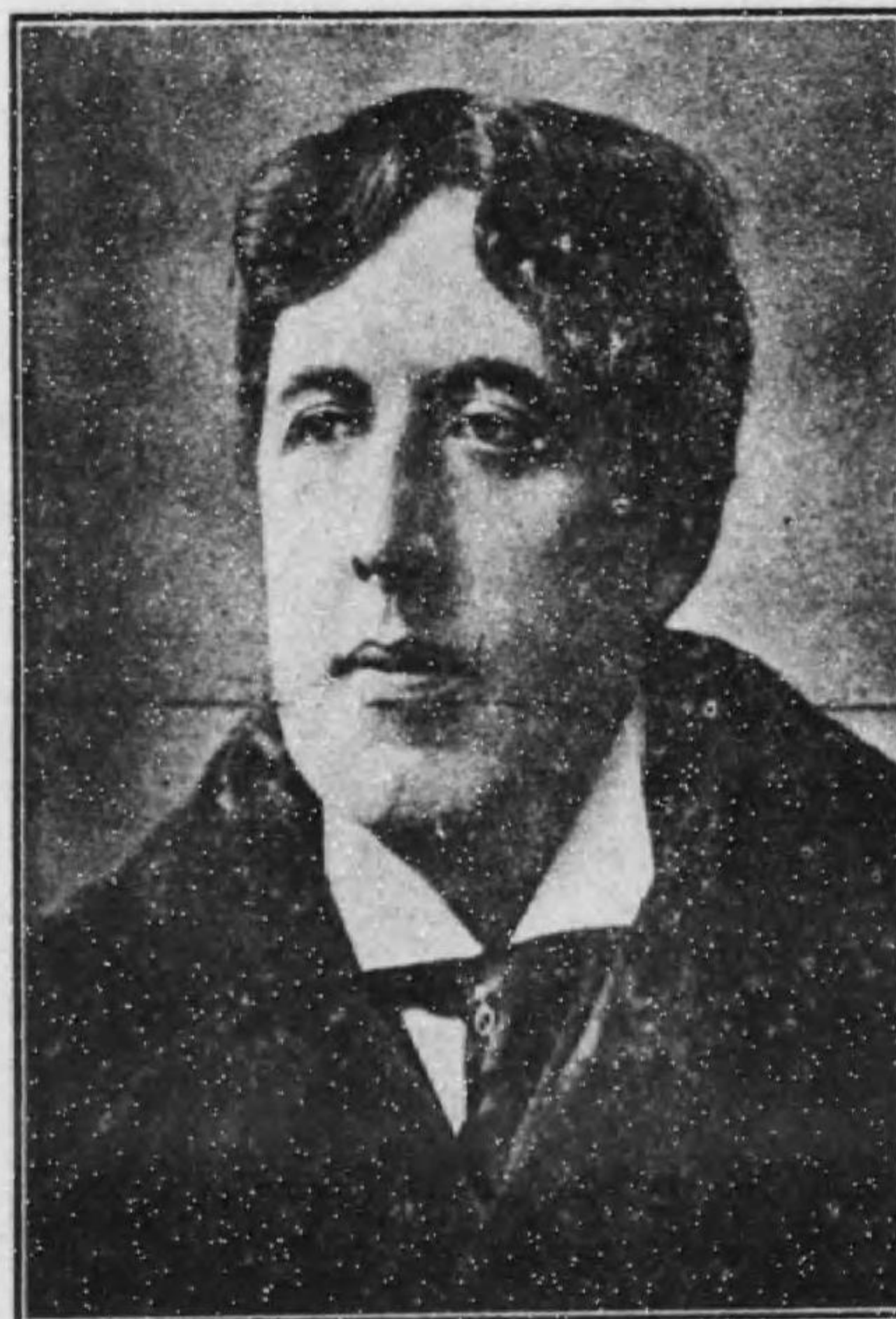


SALOMÉ

A TRAGEDY IN ONE ACT

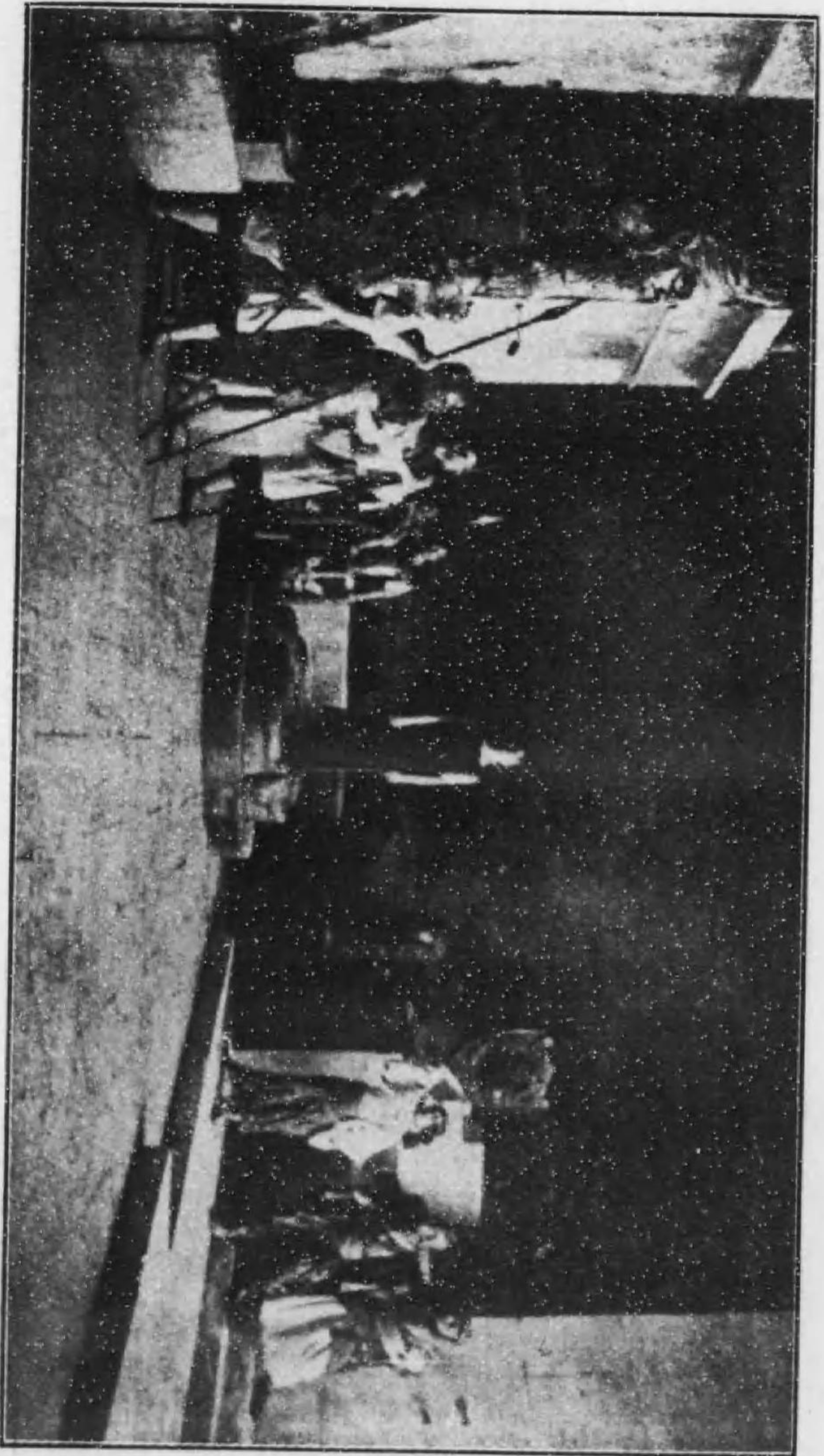
BY

OSCAR WILDE



OSCAR WILDE

面 舞 の メ ロ サ





優女の逸獨るせ粉にメロサ

ンチステ・イミンエ



ンアナカヨ者言豫とメロサ  
(筆イリズアピ)



メロサるべ喜て得を首の者言豫  
(筆イリスアピ)

### 近代脚本叢書發刊について

兩三年前から、文壇の中心興味は、漸く小説から劇の方面に移つてまゐりました。新しい劇、面白い脚本、此聲は現下の文壇の凄まじい絶叫であります。少くとも新しい文學を語り、進んだ美術を味はふんとするものは、綜合藝術の粹である劇を知らなければならぬこととなりました。現代の此要求に應ぜんが爲に生れた近代脚本叢書は、泰西名家の手に成つて好評噴々たり、文壇知名の翻譯家によりて移植せられた傑作、并に我劇作名家の筆に成



つた佳篇を續刊し、近代人の渴を醫せんとするウオトカ  
であります。劇界革新の曙光、新文壇の寵兒であります。  
蓋し此叢書の盛にもて囃されるも否かは、我新興文壇の  
趨勢の果して如何なるかを示して餘あるものも信じて  
居ります。敢て一讀を新しき近代人におすゝめ致しま  
す。

大正二年二月

現代社主人敬白

### 目次

ダリア(序に代ふる對話).....	一頁
サロメ.....	一七頁
ワイルド小傳.....	二四五頁
サロメについて.....	二五七頁
ワイルド著作目録.....	二八五頁

ダ

リ

ヤ

(序にかへて)

人物

隣の老人

青年

十二三の男の子

初春しよしゆんの暖あたたき日ひ。前ぜん面めんは凹くぼんだ街路がいろを隔へだて、小石川こいしかわの  
 高臺たかだいと相対あひたいして居ゐる。鳥籠とりかごのやうな家いえがこてとと軒のき  
 を併ならべて、青あおいもの、黒くろいもの、白しろいもの、赤あかいもの  
 など、が、ところ／＼家々いえいえの裏うらにひるがへつて居ゐる。豆まめ  
 のやうな動うごくものが、鳥籠とりかごを後生ごしやう大事だいじに守まもつてゐる姿すがた  
 が、まさ／＼と見み下くだされる。凄すさまじい勢いきほひをして、チヤン  
 くチヤンく、ゴウ／＼と音おとをさして、電車でんしゃが凹くぼんだ  
 通とほりを折々せり／＼左右まひらにゆき交かふ。背戸せこ口ぐちでひよつこり顔かほを  
 あはせた老人らうじんと青年せいねん、二人ふたり共とも手てには鉄てつを持もつて居ゐる。  
 老人らうじんは古洋袴ふるやはんをはいて破やぶれ靴ぐつをひっかけてる。青年せいねん

は尻をまくつて裸足である。

青年。 ヤ、叔父さん、何をなさるんですね？

老人。 ヤ、清さんか、ハハハ、ダリヤを植えてやつたが  
ね。

青年。 ア、さうですか。私もダリヤを植えたんです。

老人。 そりや面白い。二軒とも并んで同じ日にダリヤを  
植えるなんて、そりや面白い。然しお前さんの處で植  
えなくつても、わしの處で花が咲いたら、いくらでも  
あげたにのう。

青年。 叔父さん、ありがたう。然し叔父さんこのダリ

ヤは僕は嫌なんです。

老人。 ハハハ、そりや又どうしてじやわいのう？

青年。 叔父さんこのダリヤは、もうダリヤじやないん  
ですもの。

老人。 ダリヤでないことがあるものかね、これでも元は  
英國から直輸入のバリ〜じやつたことは、清さんも  
知つてるじやないか、アハハ！

青年。 でもあれから随分経つんですからなあ。

老人。随分経つたつてお前、ダリヤはダリヤさあ。植え  
てから五年目に、ダリヤがヒヤシンスになつたといふ  
話は、まだ聞かんでやのう。

青年。でも叔父さんとのダリヤは、新種のダリヤとは  
大變ちがつてることは事實でせう？

老人。それはちがはうじやないか。第一英國から取つて  
來てから、全く異つた土質に植えたんだもの。それに  
氣候もちがへば、肥料もちがふし、色んなことで、だ  
ん／＼と種が變るのはあたり前じやなからうか。變つ

た方がまたいゝじやないか。花の名前が同じで、形が  
似て、枝ぶりが似て、色が似てさへ居ればそれでお前  
澤山じやないかい。わしは、どちかといふと、もつと  
かへて見たいのじやがのう。

青年。どんな風にですか。

老人。菊と交合せ合せたやうなものにして、ウンと變つた  
ものにしたら、却つて面白からうと思ふとるがのう。

青年。さうすると、ダリヤ菊とか、菊ダリヤとでもいふ  
ものを作らうといふのですな？

老人。まあ、そんなことじやのう、どうせお前、ダリヤを年々輸入した處で、色だの形だのつて、向ふで出来るやうには行かないことは、分つてるのだからのう。まるで土質が違ふじやないか、土質が。よしんば温室なんかでやれば氣候こそ同じにしたところでのう。

青年。それはさうですけど、僕なんぞの考は叔父さんとは大分ちがいますね。

老人。どうちがうかね、どういふ風に？

青年。まあ、一口に云つて見ると、ちがつた土質で移植

するにも係らず、どうかして原産地の色合と形とに、出来得る限り近いものを作つて見たいと思ふのですな。老人。それが出来ればいゝけど、出来ないことが分つてるからのう、清さん。出来ないことが分つてるとすりやあ、お前、ウンと手でも入れて、別種の、日本の土質に合ふやうなものでも新しく作り出す方がいゝじやあるまいかい。面白うはあるまいかい。それに、西洋風その儘の花じや、色合や形がどうしても、日本の室内や庭園の、空氣や氣分としつくり合はないからのう。

まあ鉢をかへたりなんぞして、日本人一般の趣味に合ふやうにする必要があるてのう。

青年。私なんざあ、まあその反対ですなあ。くだらない手入なんぞは、出来る限りしないで、出来ることなら、西洋その儘の色や形のものを作つて、見たいと思ふのです。そりや苦心は苦心ですけど、よけいな手入などはどうもしたくないですなあ。

老人。そんなことをいつてちや、いつまで待つたつて、ろくなダリヤは出来やしないだらうじやないか。毎年

骨を折るばかりで、人に呉れてやるどころじやない、第一自分の家の花瓶に入れる花も出来やしないだらうじやないか。

青年。本當ですよ。それだから叔父さん、僕達は終始くろしんでばかり居るんですよ。性分といふのですか、どうしても叔父さん達のやうに呑氣になれないですね。老人。わしやどうも、あんまり心配なんかするのはいやじやて。どうせ此からの人間は洋服も来なきや、袴も着なきやならんからもう。清さん達だつて、此頃は萬

年筆の便利なことは知つとれるじやろうがの。人間といふものは、何でもあんまり執着なんかしないで、いゝところに思ひ切りをつけた方だ得のやうじやのう、清さん。わしやお前のいはれるダリヤ菊といふやうなものゝ先祖になつて見たいと思つて、慰み半分によつてるところが、却つて色んな植木屋なんどがやつて来ては、花が咲きかけると、一本下さい一本下さいといつては、皆がもつて行くがの。急がしいけど、その方がはり合があつて、一人で作つて、一人で慰んでるより

か面白いやうに思うがのう。ハ、ハ、ハ。

青年。それはさうかも知れないですが、それじや本當の

花なんか作れやしないですからなあ。

老人。本當の花なんかどうでもいゝじやないか。どうせ

人間なんて下らないもので、ゑらいことをいつたところで、何も大したことがさうく出来るものじやありやしないじやないか。わしなんざあ、何時死んだつて、もう何ともないと思つたがのう。ハ、ハ、ハ。

十二三の男の子 (老爺さんの側へいつの間にか恐びよつ



て、大きな聲をして。お老爺ちゃん！

老人 (驚いて眼をまわし倒れんとして、青年にさゝへち  
れて暫くして、吾にかへつて)。まあ、お前は何といふ

ことだらう。わしはびつくりして死ぬかと思つたよ。

ハハ、。

青年。 叔父さん、矢張まだ死にたくはないでせうねえ。

老人。 ハハ、ハハ、ハハ、！

男の子。 お老爺ちゃん、植木屋さんが来たよ。

老人。 お、さうか、さうだつたか、ハハ、ハハ、ハハ、！

(老人ニコニコとして静に去る)

青年。(ジツと見送つて居る。やがて暫くして) フフン！

フフン！

男の子。 兄ちゃん、何を笑つてるの？

(青年と男の子と黙つて暫く顔を見あつて居る。

下の家の鳩五六羽、バタ／＼と遠方から歸つ

て来て、鳥屋の口でクウ／＼クウ／＼と頻り

に鳴いて居る。)

幕。

近代脚本書叢

一九一三年四月

本郷の高臺にて

紫 蘭 識

サ  
ロ  
メ

此劇は、一八九三年佛蘭西語にて書かれたものにて、時のチャンパレン内閣は、其題材が聖書に關係するの故を以てこれが上場を禁じたが、其翌年に至りて、サラ、ベルナル夫人によりて、巴里に於て演ぜられたことは、既に一般に知られたことである。

## 人物

ヘロド・アンチバス、猶太王。

ヨカナアン、豫言者。

若きシリア人、近衛の大尉。

チゲリヌス、若き羅馬人。

カツバドシア人。

ヌビア人。

第一の兵士。

第二の兵士。

ヘロヂアスの扈從。

猶太人、ナザレ人など數人。

奴隸。

ナアマン、首斬役。

ヘロヂアス、猶太王の妃。

サロメ、ヘロヂアスの娘。

サロメの奴婢數人。

舞臺

響應の間の上にあるヘロド王の宮殿内の  
大きな廣場。兵士數人が欄干にもたれか  
ゝつて居る。右側には大きな階段。左側  
奥の方には緑色の青銅の側をつけた古井  
戸。月夜。

若きシリア人。

サロメ王女は、今夜は、マア、何て奇麗なのだらう！

ヘロヂアスの扈從。

あの月を見たまへ！ 何てマア變に見えるんだらう！ 墓穴の中から出て来る女のやうだ。死んだ女のやうだ。死んだものをさがしてゐるやうだとは、君思はないかね。

若きシリア人。

王女は變な顔つきをして居らつしやる。黄色なエエルを被つて、銀の足をした小さい王女のやうだ。小さい白鳩の足をしてる王女のやうだ。王女が踊つてらつしやるやうには、君思はないかね。

ヘロヂアスの扈從。

月は死んだ女のやうだ。大變ゆつくりと動いてゐる。

(響應の間で騒ぐ音す。)

第一の兵士。

何て騒動だい！ あの吠えてる野獣どもは、一體なんだい？

第二の兵士。

猶太人だ。奴等いつもあの通りだ。宗教の喧嘩をやつてるんだよ。

第一の兵士。

どうして、宗教の喧嘩をやるんだろね？

第二の兵士。

分るもんか。いつもやつてるんだ。例へて見りや、フアリジイ派の奴等が、天使といふものがあるといふと、サヂユシイ派の奴等は天使なんてありやしないつていふんだ。

第一の兵士。

そんなことで喧嘩なんぞするなあ、馬鹿くしいと思ふなあ。

若きシリア人。

サロメ王女は、今夜は、マア、何て奇麗なのだらう！

ヘロヂアスの扈從。

君は、しよつちう王女ばかり見て居るんだね。あんまり見過ぎてゐるよ。そんな風に人を見つめて居るのは危ないよ。何か恐ろしいことが起つて來るかも知れないよ。

若きシリア人。

王女は今夜は全く奇麗だ。

第一の兵士。

王様は陰氣な顔をしてゐらつしやるなあ。

第二の兵士。

さうだ、陰氣な顔をしてゐらつしやるなあ。

第一の兵士。

何だか見つけてゐらつしやるよ。

第二の兵士。

誰か見つめてゐらつしやるんだ。

第一の兵士。

誰を見てゐらつしやるんだらう？

第二の兵士。

分らないさ。

若きシリア人。

王女はマア、何て青白いんだろ！ あんな青白い

顔をしてらつしやるのを見ることがない。銀の鏡に  
うつした白薔薇の影のやうだ。

ヘロヂアスの扈從。

君は王女をみつめていけないね。あんまり、みつ  
め過ぎてゐるやうだよ。

第一の兵士。

お妃が王様のコップにおつぎなされた。

カツパドシア人。



あれが、お妃のヘロデアス様かい、あの眞珠で飾つた黒い冠を被つて、髪の毛に青い粉をつけてお出でなさるのが？

第一の兵士。

さうさ。あれがお妃のヘロデアス様だよ。

第二の兵士。

王様は葡萄酒が大變お好きだ。三通の葡萄酒を召上るんだよ。サモスレエスの島からもつて来るのは、

羅馬皇帝の上衣のやうな紫色なのだ。

カツパドシア人。

おれは羅馬皇帝を見たことがない。

第二の兵士。

それからサイプラスの町から来るのは、金のやうな黄色なのだ。

カツパドシア人。

おれは金が好きだ。

第二の兵士。

それから三番目のは、シ、リイから来る葡萄酒だ。それや血のやうに赤いんだ。

ヌビア人。

おれの國の神様達は、血が大好きだ。年に二度づつ、若い男と女を人身御供にあげるんだ。男の子を五十人と、女の子を百人となあ。それでゐて、とつてもまだ御供物が足りなささうなんだ、なせだつて神様達がおれどもにえらうきつくなさるんだものな

あ。

カツバドシア人。

おれの國にや、神様なんて一人も居やしない。羅馬人がみんな追拂つちまいやがった。神様は山ん中へ隠れてるといふものがあるが、おれは本當にしな

いんだ。三晩といふものおれは山ん中に居て、どこもかも神様をさがしあるいたが、めっかりやしなかつた。それから、たうとおれは神様達の名を呼んで見たんだ、それでも神様は出て来やしなかつた。お

れは神様達は死んだんだろと思ふよ。

第一の兵士。

猶人は、お前なんぞに見えない神様を拜んでるんだつて。

カツバドシヤ人。

おれにやそんなことはわからない。

第一の兵士。

本當に眼に見えないものを信仰してるのは猶人は

かりだよ。

カツバドシヤ人。

そんなことは、おれなんぞから見ると、全く馬鹿くしいやうだがなあ。

ヨカナアンの聲。

おれの後から、おれよりかすつと強いものがやつて来やう。おれは、その人の靴の紐を結べるほどの価値もないものだ。その人が来ると、淋しい所が喜

ばしうならう。其場所が百合のやうに咲き盛るだらう、盲人の眼にも日が見えよう、犢の耳も聽えるやうにならう。生れたばかりの赤ん坊が、龍の寢床に手を置けよう、獅子の鬣を引いてあるけるだらう。

第二の兵士。

彼奴をだまらして呉れよ。いつもく馬鹿げたことを言つて居やがる。

第一の兵士。

いや、く。あれは聖者だ。そして大變に穩かな人だよ。毎日おれが食べるものを進せると、おれにお禮をいふのだよ。

カツバドシア人。

誰だい、あれは？

第一の兵士。

豫言者だ。

カツバドシア人。

名前は何かといふのだい？

第一の兵士。

ヨカナアン。

カツバドシア人。

何處からやつて来るんだい？

第一の兵士。

沙漠から来たんだ、其處で蝗と野蜂の密を食つて  
たんだ。駱駝の毛を着て、腰にはなめし革の帯をし

めて居た。顔を見るとぞつとするやうだつたよ。い  
つもく大變な人が、後をついて歩いてた。弟子ま  
で居たんだつて。

カツバドシア人。

あの男、何をいつてるんだい？

第一の兵士。

分らないさ。時には恐ろしいことを云つてるが、  
何を云つてるんだか、とても分りつこなしさ。

カツバドシア人。

あの男に會つてもいゝかしら？

第一の兵士。

いゝや、王様がそれをお禁めになつてゐるんだ。

若きシリア人。

王女は扇で顔をお隠しなすつた。小さい白いお手が、鳥家へ飛んで行く鳩のやうに、ヒラリヒラリしてる。白い蝶々のやうだ。まるで白い蝶々のやうだ。

ヘロヂアスの扈從。

それが君にどうしたといふのだい？ なせ君はあの方を見つめるのだい？ あの方を見つめちやいけない。何か恐ろしいことが起つて來るかも知れないよ。

カツバドシア人。

(水溜を指して。)

マア、變な牢屋だなあ！

第二の兵士。

古い水溜だ。

カツバドシア人。

古い水溜だつて！ さぞ體にわるいだろうなあ。

第二の兵士。

いやなあに！ 例へば王様の御兄弟、あのお兄い  
様な、ヘロヂアス女王の初めの御亭主、あの方は、  
十二年もあの中に入れられてお出でなすつた。それ

でも死にはなさらなかつた。とうと十二年の後に、  
絞め殺されておしまいなさらなきやならなかつた。

カツバドシア人。

絞め殺された？ 誰が思ひ切つてそんなことをし  
たのだい？

第二の兵士。

(首斬役の大きな黒奴を指して。)

あすこの、あの男だ、ナアマんだ。

カツバドシア人。

あの男、恐がつて居やしなかつたんだね？

第二の兵士。

いや、なあに！ 王様があれに指輪をおやりになつたんだ。

カツバドシア人。

何の指輪を？

第二の兵士。

死の指輪さ。だから恐かなかつたんだよ。

カツバドシア人。

でも、王様を絞め殺すなんてことは恐ろしいことだせ。

第一の兵士。

どうして？ 王様だつて、他の人間と同じやうに、首は一つきやありやしなないよ。

カツバドシア人。



おれは恐いと思ふなあ。

若きシリア人。

王女がお立ちなすつた！ 食卓をお逃げなさるところだ！ 大變に心配事があるやうだ。マア、此方の方へ入らつしやるんだ。さうだ、おれ達の方へいらつしやるんだ。何て眞青だろ！ あんな眞青なお顔を見ることがない。

ヘロデアスの扈從。

あの方を見つめないでゐたまへよ。後生だから、あの方を見つめないでゐてくれたまへ。

若きシリア人。

王女は路に迷うた鳩のやうだ。……風にゆれてる水仙のやうだ。……銀色の花のやうだ。

(サロメ登場)

サロメ。

あたしあんなどこに居たくないわ。ゐられないん

だわ。どうして王様は、あのぶるぶるとふるえてる  
 臉の下の、鼯鼠の眼で、しよつちうあたしを見つめ  
 て居らつしやるのだらう。お母様の御亭主が、あんなに  
 あたしを見つめてゐらつしやるのは變だわ。何  
 のことだか、わたしには分らないわ。本當は、さう  
 だ、あたしにはわかつてるわ。

若きシリア人。

あなたは、今しがた、宴會の席をお立ちになりま

したのですね？ 殿下。

サロメ。

なんてマア、此處の空氣はいゝ氣持だらう！ あ  
 たし此處なら息が出来るわ！ あすこの中では、ジ  
 エルサレムから來た猶人たちは、馬鹿くしい儀式  
 のことでお互に噛みつき合つてるし、野蠻人はやたら  
 飲んでく、床の上にお酒をこぼしてるし、スミ  
 ルナから來た希臘人は、眼や頬に彩色をして、縮れ

た髪の毛は渦巻に巻きあげてるし、黙ってる狡猾い  
 埃及人は、疲れた馬のやうな長い爪をして、赤茶け  
 た外套を着て居るし、野蠻な粗暴な羅馬人は卑陋な  
 おしやべりをしてるんだもの。あゝ、なんていやな  
 羅馬人だらう！ 亂暴で下卑てゐて、その僻自分で  
 は貴族のやうな風をしてるんだもの。

若きシリア人。

あなたお掛けなさいませんか？

殿下。

ヘロヂアスの扈從。

なせ君はあの方に話しなぞをするんだね？ なせ  
 君はあの方を見つめるんだね？ マア！ 何か恐ろ  
 しい事でも起るんだらうな。

サロメ。

月を見てるのは、何ていゝ氣持だらう！ 月は小  
 さいお金のやうだわ、小さい銀の花のやうだと思  
 はないの。月は冷たくつて純潔だわ。乞度處女だわ、

處女の美しさをもつてゐるんだわ。さうだ處女だわ。まだ自分で自分の身をけがしたことなんかないんだわ。ほかの女神達と同じやうに、男に自分の體なんぞまかせたことはないんだわ。

ヨカナアンの聲。

主がおいででなされた。人の子がおいででなされた。セントオロス(馬身人首の怪物)は、河の中へ隠れてしまつた。サイレンは河からにげだして、森の落葉の

下に寝て居る。

サロメ。

大きな聲をしたのは、誰だつたの？

第二の兵士。

豫言者で御座ります、殿下。

サロメ。

あゝ、豫言者！ あの王様の恐がつてらつしやる、あの人？

第二の兵士。

私し共はそんなことは何にも存じません、殿下。  
大きな聲をしたのは、豫言者のヨカナアンで御座い  
ました。

若きシリア人。

お輿をもつて参らせませうですか、殿下。今夜は  
庭の中はいく景色で御座いますよ。

サロメ。

あの人は、お母様のことについて、恐ろしいこと  
をいつてゐたでしょ、じやないの？

第二の兵士。

何をいつてゐるんだか一寸も分かりません、殿下。

サロメ。

さうだ、お母様のことについて、恐ろしいことを  
云つてゐるのだよ。

(奴隷登場)

奴隷。

殿下、國王陛下が、ごうぞ、お席へお戻りになるやうにとのことで御座ります。

サロメ。

あたしは歸らないよ。

若きシリア人。

御免し下さいまし、殿下、でも若しお歸りになりませんと、何か不仕合せなことが起るかも知れませ

んで御座いますよ。

サロメ。

あの豫言者は年寄かえ？

若きシリア人。

殿下、おもごりになつた方が宜しう御座いませう。御免を蒙つて御案内致しませう。

サロメ。

此豫言者は……あの人は年寄かえ？

第一の兵士。

いゝゑ、殿下、あれは全く若い男で御座ります。

第二の兵士。

確にさうとはいへないよ。あれは、エリアスだといふものもあるよ。

サロメ。

エリアスつて誰なの？

第二の兵士。

此國のごく昔の豫言者で御座ります、殿下。

奴隸。

國王陛下には、何と御返事を申上げますで御座いますせうか？

ヨカナアンの聲。

パレスチンの國よ、お前を打つた筈が折れたからといって、お前喜ぶまいぞよ。なせだつて、蛇の種から毒蛇が出て来ようぞよ、そして、それから生れ

た奴は鳥を食はうぞよ。

サロメ。

何といふ妙な聲だらう！ あたしはあの人と話しがして見たいわ。

第一の兵士。

それは駄目で御座りませう、殿下。國王陛下は誰でもあの男と話をすることが御嫌ひで御座ります。頭の坊様が、あの男と話をするのをさへお禁止にな

りました。

サロメ。

あたしはどうしても、あの人と話しがして見たいわ。

第一の兵士。

駄目で御座ります、殿下。

サロメ。

あたし、どうあつてもあの人と話しをするよ。



若きシリア人。

宴會場へ、お戻りになつた方が、およろしうは御座いませんでせうか？

サロメ。

あの豫言者をつれて来てお呉れ。

(奴隷退場)

第一の兵士。

私共には出来ません、殿下。

サロメ。

(水溜に近づいて、中へのぞき込んで。)

マア、何て暗いのだらう、下は！　こんな暗い穴の中に居るといふのは、嘸恐ろしいことにちがひないわ！　墓穴のやうだわ。……… (兵士に。) お前達きこゑなかつたのかえ？　豫言者をつれて来てお呉れよ。あたしあの人に遇いたいのだよ。

第二の兵士。

殿下、どうぞそれは御免を蒙りたう御座ります。

サロメ。

お前達は、あたしを待たせとくんだね！

第一の兵士。

殿下、私共の命はあなたのもので御座ります。けれども、私共は、只今仰つしやつたことは致すことが出来ません。そして本當に、私共にはこれを仰つしやつて下さいますな。

サロメ。

(若きシリア人を見て。)

あゝ！

ヘロデアスの扈從。

マア！ どうなつて來ることだらう？ 乞度何か不仕合なことが起つて來るだらう。

サロメ。

(若きシリア人のところへ歩いて行つて。)

お前は、あたしにこれをして呉れるの、して呉れないの？ ナラボスや。お前はあたしにこれをして呉れるでしょ。あたしはいつもお前に親切だつたのね。お前はあたしにこれをして呉れるでしょ。あたしは此の妙な豫言者をたゞ見たいのだよ。人はあの人のことを、いろ／＼と話して居たよ。王様もあの人のことを、よくお話しなすつてらしたよ。あたし王様はあの人を恐がつて居らつしやると思ふのよ。  
お前、お前もあの人を恐がつてるの？ ナラボスや。

若きシリア人。

私しは、あの男を恐がりは致しません、殿下。私しは恐いものは御座いません。でも國王陛下は、誰でもあの水溜の蓋をあげてはならないと、厳しくお止めになりました。

サロメ。

お前はあたしにこれをしてお呉れだろ、ナラボスや。さうすりや、あした、あたしが輿に乗つて、偶

像賣の門の下を通る時に、お前に小さい花を落して  
あげるよ、小さい縁りの花をね。

若きシリア人。

殿下、わたくしには出来ません。わたくしには出  
来ません。

サロメ。

(微笑しながら)

お前はあたしにこれをしてお呉れだろ、ナラボス

や。ねえ、お前はあたしにこれをしてお呉れだろ。  
さうすりや、あした、あたしが偶像賣のゐる橋の側  
を通る時に、ヴェルの中からお前を見てあげるよ、  
お前を見てあげるよ、ねえ、ナラボスや、大方あた  
し笑つて見せてあげるかも知れないよ。あたしを御  
覧よ、ナラボスや、あたしを御覧よ。マア、お前は  
あたしの頼むことをしてお呉れだろ、ねえ。ねえ、  
よく分つてるだろ……お前これをしてお呉れだこ  
とを、あたしちやんと知つてるわ。

若きシリア人。

(第三の兵士に合圖をして。)

豫言者をつれて來い。………サロメ殿下がお遇い  
になりたいのだ。

サロメ。

あゝ！

ヘロヂアスの扈從。

マア！ 月がなんて變に見えるのだらう。白無垢

で自分の體をかくさうとしてゐる、死んだ女の手  
のやうには思へないかねえ。

若きシリア人。

變な恰好をしてるなあ！ 琥珀の眼をした小さい  
王女のやうだ。モスリンの雲の中から、小さい王女  
のやうにニコ〜と笑つてる。

(豫言者水溜の中から出て來る。サロメ彼れを見て

靜かにあざしざりする。)

ヨカナアン。

盗れかゝつて居る穢の杯をもつた男は、何處に居るのだ？ 銀の衣を着て、いつか大勢の眼の前で、死ななければならぬ男は何處に居るのだ？ 沙漠の中や宮殿の中で、叫んだ人の聲が聞えるやうに、その男を此處へ出て來させい。

サロメ。

あの人は誰のことを云つてるのかえ？

若きシリア人。

とても分りませんで御座います、殿下。

ヨカナアン。

壁の上に書いた男共の肖像を見て、繪の具で飾つたカルデア人の肖像を見て、自分の眼の慾の中にその身をすてしまつて、カルデアの國へ使節をやつた女は何處に居るのだ？

サロメ。

あの人の云つてゐるのは、お母様のことだわ。

若きシリア人。

マア、さうでは御座りません、殿下。

サロメ。

さうだよ、あの人の云つてゐるのは、お母様のことだよ。

ヨカナアン。

腰には飾帯をつけて、頭には色んな彩の冠をかぶ

つた、アツシリアの隊長ごもに、身をまかせた女は何處に居るのだ？ 立派な麻や紫の着物をきて、金の櫛をもち、銀の兜をかぶつて、巨大い體の埃及の若い男ごもに、身をまかせた女はどこにゐるのだ？ その女に、主のために道をひらく人の言葉がきこゑるやうに、自分の罪を悔いることが出来るやうに、穢辱の寢床、血族相犯の寢床から、その女を起してやれ。もしその女が罪を悔いないで、しつかりと其穢にくつゝいて居るなら、その女を此處へ來させい、

主の扇は今その手の中にあるから。

サロメ。

でも、怖い人だ、怖い人だ！

若きシリア人。

此處に居らつしやいますな、殿下、どうぞ。

サロメ。

何よりも怖いのはあの人の眼だわ。チリアの花籃に、炬火であけた黒い穴のやうだわ。龍の住つて

眞黒な洞穴のやうだわ。毒蛇の子を生む龍が住んでるあの埃及の眞黒な洞穴のやうだわ。幻の月の光になやまされた、黒い湖のやうだわ。……あの人はまだ何かいふんだらうかねえ？

若きシリア人。

此處にゐらつしやいますな、殿下。どうぞ此處にゐらつしやいますな。

サロメ。



マア、あの人のやつれてること！ あの人はやせた象牙の像のやうだわ。銀の肖像のやうだわ。乞度あの人はあのお月様のやうに潔白な人だわ。月の光のやうだわ、銀の箭のやうだわ。あの人の體は、象牙のやうに冷たいにちがひないわ。あたしもつと傍へ寄つて見たいわ。

若きシリア人。

いけません、いけません、殿下。

サロメ。

あたし、もつと傍へよつて、あの人を見なくつちやならない。

若きシリア人。

殿下、殿下。

ヨカナアン。

おれを見つめて居る此女は誰だ？ おれはあの女に見て貰いたくない。あのぴかぴかと光つてる臉の

下の金色の眼で、何のためにあの女はおれを見つめてゐるのだらう？ あの女は誰れだか、おれには分らない。また誰れだか知りたくもない。あの女を逃がしてくれ。おれが話のしたいのはあの女ではない。

サロメ。

あたしはサロメだよ。ヘロデアスの娘、ユデアの王女だよ。

ヨカナアン。

下れ！ バビロンの娘！ 主から選ばれたものに近よるな。そちの母親は、自分の穢れの酒を地上に溢らせた。あの女の罪の叫びは、神様の耳にもとどいたぞよ。

サロメ。

も一度話してお呉れ、ヨカナアンや。お前の聲はあたしには酒のやうなんだもの。

若きシリア人。

殿下！ 殿下！ 殿下！

サロメ。

も一度いつてお呉れ！ も一度話してお呉れよ、ヨカナアンや、あかしが爲なくちやならないことをね、云つてきかせてお呉れな。

ヨカナアン。

ソドムの娘、おれの傍へよるな！ その代り、そちはヴェルで顔をかくして、頭の上に灰を撒いて、

そして沙漠へ行つて、人の子をさがすがい。

サロメ。

誰のことかえ、人の子つて？ お前のやうな奇麗な人かえ？ ヨカナアンや。

ヨカナアン。

おれの後へ行くがい！ おれには宮殿の中で、死の天使の羽の音のしてゐるのがきこえる。

若きシリア人。

殿下、どうぞ奥へおはいりなされて下さいまし。

ヨカナアン。

わが主、神の御使、剣をもつて此處で何をなさるのです？ 此穢れた宮殿の中で、何をさがしておいでになるのです？ 銀の衣を着て死ぬべきあの男の、最後の日はまだ来ない筈だが。

サロメ。

ヨカナアンや！

ヨカナアン。  
誰だい、物をいつてゐるのは？

サロメ。

ヨカナアンや、あたしはお前の體に惚れてよ！  
お前の體は、まだ鎌のはいつたことのない、野原の百合のやうに眞白だ。お前の體は、山の上の雪のやうに、やがて谷間に下りて来る、ユデアの山の雪のやうに眞白だ。アラビアの女王の花園の薔薇でも、

お前の體のやうに白くはないんだわ。アラビアの女王の花園、アラビアの女王の、あの香ばしい香料の花園の薔薇でも、あけ方の草葉の上に降りて来る足でも、海の胸の上に寝てる時の月の胸でも……世の中のありとあらゆるものゝ中に、お前の體ほど白いものはないのだから。あたしにお前の體をさはらしてお呉れな。

ヨカナアン。

下れ！ バビロンの娘！ 世の中へ罪惡の來たのは女の勢だ。おれに物をいふな。おれはそちのいふことはきかない。たゞ神様の聲だけをきくのだ。

サロメ。

お前の體は氣味が悪いわ。癪病の體のやうだ。毒蛇の匍つた塗壁のやうだ。蠍が鼻をくつた塗壁のやうだ。穢ないものが一杯はいつた、白塗の墓のやうだ。こはいわ、お前の體はこはいわ。あたしの氣に

入つたのは、お前の髪の毛だよ、ヨカナアンや。お前の髪の毛は、葡萄の房のやうだ、エドマイト人の國の、エドムの蔓から垂れさがつた、葡萄の房のやうだ。お前の髪の毛は、レバノンの杉の木やうだ、晝中に、獅子や泥棒に蔭をかしてやる、レバノンの大きな杉の木やうだ。月が姿をかくしたり、星が恐がる長い真暗な夜でも、それほど黒くはないわ。森の中に住つてゐる沈黙でも、それほど黒くはないわ。世の中にお前の髪の毛のやうな黒いものはないわ。

……お前の髪の毛にさはらしてお呉れな。

ヨカナアン。

下れ、ソドムの娘！ おれに觸つて貰ふまい。神様のお寺を汚して貰ふまい。

サロメ。

お前の髪の毛は恐いわ。泥だらけ、ほこりだらけだ。お前の額につかつてる、薊の冠のやうだ。お前の頸の周りに蟠つてる、黒い蛇の結び目のやうだ。

あたし、お前の髪の毛は嫌ひだわ。……あたしの欲しいのは、お前の口だよ、ヨカナアンや。お前の口は、象牙の塔の上の、紅の紐のやうだ。チイルの花園に咲いてる柘榴の花は、薔薇の花よかすつと赤いけど、お前の口ほどに赤くはないわ。帝王の近づきを知らせて、敵を恐らかす喇叭の赤い音も、そんなに赤くはないわ。お前の口は葡萄酒桶の中にはいつて葡萄酒をふんでる杜氏の足よかすつと赤いのね。お前の口は、お寺にやつて来て、坊さん達に餌をも

らつてる鳩の脚よかすつと赤いのね。獅子を殺して、立派な虎を見て、森の中から出て来た男の足より赤いのね。お前の口は漁師が海の底の薄明りの中で見つけて、帝王のためにしまつて置く珊瑚の枝のやうだ！……モアバイト人が、モアプの鑛山から堀出して、帝王の手にわたす朱のやうだ。朱で彩つて、珊瑚でかざつた、波斯王の弓のやうだ。世の中にお前の口ほど赤いものは何んにもないわ。……お前の口をキスさせてお呉れ。

ヨカナアン。

ならん！　バビロンの娘！　ソドムの娘！　決してならん。

サロメ。

あたし、お前の口にキスするのだよ、ヨカナアンや、お前の口にキスしないで置きはせぬよ。

若きシリア人。

殿下、殿下、没薬の花園のやうな、鳩の中の鳩の

やうなあなたは、此男を御覧なさいますな、あの男をお見つめなさいますな！　あの男に、あんな言葉をかけなさいますな。私しはきいて居るに忍びません。……殿下、殿下、あんなことを仰つしやつて下さいますな。

サロメ。

あたしは、お前の口にキスするのだよ、ヨカナアンや。



若きシリア人。

あゝ！

(若き大尉は自殺して、サロメとヨカナアンとの間に介れる。)

ヘロヂアスの扈從。

若いシリア人は自殺しちやつた！ 若い大尉は自殺してしまつた！ おれの友達だつたあの男は自殺した！ おれが香料の小さな箱と、銀の耳輪をやつ

た男は今自殺してしまつた！ おう、あの男は前から何か不吉なことが起るだらうと云つてたじやないか？ おれも前からそれを云つてゐた。そして、それが今起つたんだ。さうだ、おれには、月が死んだものを探してるといふことが分つて居た。でも月の探してるのが、あの男だとは思はなかつた。マア！ おれはどうして、あの男を月から隠してやらなかつたんだらう？ おれが洞穴の中へ隠して置いてゐたら、月には見えなかつただらうになあ。

第一の兵士。

殿下、若い大尉は、ほんの今自殺いたしました。

サロメ。

お前の口をキスさせてお呉れ、ヨカナアンや。

ヨカナアン。

そちは、恐くはないか、ヘロヂアスの娘？ 死の御使の羽の音が、宮殿の中で聞えたよ、おれはそちに云はなかつたかい、それから、死の御使が来はし

なかつたかい？

サロメ。

お前の口を、キスさせてお呉れ。

ヨカナアン。

姦淫の生んだ娘よ、そちを救ふことの出来るものが、たつた一人ある。おれがさきに云つた、あの一人じや。行つてその方をさがすがいい。その方はガリライの海で、短艇に乗つて居られる、そしてそ

の弟子どもに話しをして居られる。海岸に行つて膝まづいて、名を云つて、その方を呼ぶがい。誰れでも、その方の名を呼ぶものゝところへ、來られるのだから、その方がそちのところへ來られたら、その方の足もとに膝まづいて、罪のお許しを願ふがい。

サロメ。

お前の口をキスさせてお呉れ。

ヨカナアン。

咀はれて居れ、不義の母の娘、咀はれて居れ！

サロメ。

あたしは、お前の口にキスするのだよ、ヨカナアンや。

ヨカナアン。

おれは、そちを見たくない。おれはそちを見やせぬ、咀はれて居れ、サロメ、そちは呪はれて居れ。

(豫言者、水溜に降りて行く。)

サロメ。

あたしはお前の口にキスするのだよ、ヨカナアン  
や。お前の口にキスしないで置きはせぬよ。

第一の兵士。

何處か他のところへ、此死骸をもつて行かなくて  
はなるまい。王様は、御自分でお殺しなされた以外  
の、死骸を見るのが御嫌ひだ。

ヘロデアスの扈從。

あの男はおれの兄弟だつた。兄弟よりも近しいも  
のだつた。おれはあの男に、香料の一杯はいつた小  
さい箱と、瑪瑙の指輪とをやつたら、その指輪を終  
始指にはめて居た。夕方には、二人でいつも川邊の  
杏の樹の中を散歩することにして居た。するとあの  
男は、いつも自分の國の、色んなことを話るのが癖  
だつた。いつも細い聲でものを云つて居た。あの男  
の聲は、笛吹きの笛の音のやうだつた。それからま  
た、あの男は川にのぞいて、自分の姿を見るのが大

變好きだつた。おれはあの男がそれをするのを、いつも意見をしてゐた。

第二の兵士。

本當にさうで御座いました。此死骸をかたづけなくてはなりません。國王陛下の御目にとまつてはなりません。

第一の兵士。

陛下は此處へお出でにはなるまい。決して此廣場

へはゐらつしやらない。ひどく豫言者を恐がつて居らつしやるんだもの。

(ヘロツド王、ヘロヂアス妃及び、有ゆる從者等登場。)

ヘロツド王。

サロメは何處に居るのだ？ 王女は何處に居るのだ？ あれに、宴席へ戻つて來いといつたのに、何故歸つて來なかつたのだらう？ ハア！ あすこに

居るな！

ヘロチアス妃。

あなた、あれの顔ばかり御覽なすつてはいけませ  
んわ！ あなたは、終始あればつかりみつめてゐら  
つしやいますのねえ！

ヘロツド王。

今夜は月が妙な姿をして居る。妙な姿をして居な  
いかねえ？ 氣のちがつた女のやうだ。行きつく先

で、戀人をさがしてる氣のちがつた女のやうだ。そ  
してまた月は裸だ。すつ裸だ。雲はすつばだかの月  
に、着物を着せようとしてあせつてゐるが、月はそ  
れをさせないのだ。裸で空に出て居る。酔つばらつ  
た女のやうに、雲の中をよろり／＼と歩いて居る。：  
……乞度月は戀人をさがしてるのだ。酔つばらつた  
女のやうに。よろり／＼と歩いてはゐないかね？ ど  
うも氣のちがつた女のやうだ。さうではないかねえ？

ヘロヂアス。

いゝゑ。月は月のやうで御座います。それだけで御座います。奥へまゐりませう。……あなたは、此處でなさることは、何にも御座いません。

ヘロツド。

おれは此處に居る！ マネツセエ、あすここに敷物を敷け。炬火をつけえ、象牙のテエブルを出せ、それから碧玉のテエブルを出せ。此處は空氣がいゝ。

客たちと、もつと酒をのまう。羅馬皇帝の使者達に、出来る限りの敬意を表しなくてはならない。

ヘロヂアス。

あなたの此處にゐらつしやるのは、そのためでは御座いません。

ヘロツド。

さうだ、いゝ空氣だ。サア、ヘロヂアス、客はおれ達を待つてゐるのだ。ヤア！ 滑つた！ 血をふ

みすべつたぞ！ 不吉な前兆だ。大變に不吉な前兆だ。どうして此處に血があるのだ。……それから此死骸は、此處で何をしてるのだ、此死骸は？ おれは埃及王のやうだと思ふかい、客に死骸を見せないでは、宴會をしたことがないといふ埃及の王のやうだと思ふのかい？ 誰の死骸だ？ おれは見たくない。

第一の兵士。

大尉殿で御座ります、陛下。たつた三日許り前に大尉になされました、若いシリア人で御座ります。

ヘロツド。

おれは、あの男を殺せと云ひつけたことはない。

第二の兵士。

自殺せられたので御座ります、陛下。

ヘロツド。

どういふ理でじや？ おれは、あの男を大尉にし



てやつたに。

第二の兵士。

私共は存じませんで御座ります、陛下。然し自殺されたので御座ります。

ヘロツド。

それは變な事だ。おれは、自殺をするのは羅馬の哲學者ばかりだと思つた。本當じやないか、チゲリヌス、羅馬では哲學者が自殺するといふのは？

チゲリヌス。

自殺するものも御座ります、陛下。あれはストア派のもので御座ります。ストア派の連中は亂暴な奴等<sup>ら</sup>で御座ります。馬鹿な奴等<sup>ら</sup>で御座ります。私はあの連中を、全く馬鹿げたものごと、思つて居ります。

ヘロツド。

おれもじや。自殺などをするのは、馬鹿くしい

ことだ。

チゲリヌス。

羅馬では、誰れもかれも、あの連中を笑つてをります。皇帝はあの連中に對して、諷刺の詩をおつくりになりました。その詩は到る處で、讀まれて居ります。

ヘロツド。

はゝあ！ その連中に對して、諷刺の詩をお作り

なされたかい？ 羅馬皇帝はゑらい人じやのう。何でも出来るのう。……若いシリア人が自殺したのは、ごうも變じや。自殺したのは氣の毒じや。非常に氣の毒じや。立派な男じやつたからのう。非常に立派な男じやつたからのう。あの男は非常に可愛い眼をしてをつた。おれはあの男が、あの可愛い眼で、サロメを見てゐるのを見たことがあるやうに思ふ。本當に、あの男は、あんまりサロメを見過ぎて居たやうに思ふ。

ヘロヂアス。

あんまりあの女を見つめて居るものが、他にも御座いますわ。

・ヘロツド。

あれの叔父は國王であつた。おれはそれを國から逐拂らつたのだ。それからヘロヂアスや。お前は妃であつたあれの母親を召つかひにしたのだ。それであの男は、いはば、まあ、おれの客分として此處に

居たのだ、だから、おれはあの男を大尉にしてやつた。それが氣の毒なことに死んでしまつた。コラ！何故死骸を此處に打やつといたのだ。おれは見たい——あちらへ片附けろ！

(一同死骸を持ち去る。)

此處は寒い。風が吹いてゐる。風が吹いてゐるではないか？

ヘロヂアス。

いゝゝ、風は吹いては居りませぬ。

ヘロツド。

確かに風が吹いてるといふに………それから、何  
だか空で羽の音のやうなものが、大きな羽の音のや  
うなものが、おれにはきこえる。お前にはきこえな  
いかい？

ヘロチアス。

何にもきこえません。

ヘロツド。

もうおれにも聞こえない。でもさきには聞こえた。  
あれは乞度風の吹く音であつた。今やんだのだ。然  
し、いや〜、又聞こえる。お前には聞こえないか  
い？ 丁度羽の音のやうだ。

ヘロチアス。

たしかに何にも聞こえはいたしませぬ。あなたは御  
病氣なのですよ。奥へまわりませう。

ヘロツド。

おれは病氣ではない。病氣なのはお前の娘だ。病人のやうな容貌をしてゐる。おれはまだ、あれがあれな蒼い顔をしてゐるのを見たことがない。

ヘロデアス。

あれの顔を、御覽なさいますなといふのに。

ヘロツド。

おれに酒を注げ。

(酒をもてくる。)

サロメ、来ておれと一處に少し酒を飲め。此處に芳醇な葡萄酒がある。羅馬皇帝がおれに呉れたのだ。おれに此コップが干せるやうに、お前の小さな赤い唇に、これをつけて呉れい。

サロメ。

あたしは、渴いてはをりませぬ。

ヘロツド。

このお前の娘が、おれにどんな返事をするかお前

きいただらうな？

ヘロヂアス。

あれのいつたのは尤もで御座います。なせあなたは、あの子を終始見つけてゐらつしやるので御座います？

ヘロツド。

熟れた果物をもて来い、

(果物をもて来る。)

サロメ、来ておれと一處に果物をたべい。おれは果物についた、お前の小さい齒の跡を見るのが好きじゃ。此果物を、ほんの少し噛んでみい、それから残りはおれが食べよう。

サロメ。

あたしはお腹がすいて居ません。

ヘロツド。

(ヘロヂアスに。)

お前は、此自分の娘を、どんな風に育てて来たか、  
今分るだらう。

ヘロヂアス。

娘と私とは、王族の生れで御座います。それに  
あなたは、あなたのお父様は、駱駝追ひだつたので  
すわ！ それからまた、剽盗だつたのですわ！

ヘロツド。

それは嘘だ！

ヘロヂアス。

あなたは、嘘でないといふことを、よく御存じで  
あつしやいますわ。

ヘロツド。

サロメ、来ておれの傍へ座りや。おれはお母さん  
の玉座へお前を座らせてやらう。

サロメ。

あたしは草臥ては居りません。

ねえ、あの子<sup>こ</sup>が、あなたをどう思<sup>おも</sup>つてゐるか、お  
分<sup>わか</sup>りで御座<sup>ござ</sup>いませう。

ヘロヂアス。

ヘロツド。

あれをもつて来<sup>こ</sup>い——え、つと、何<sup>なに</sup>やらだつた  
な？ 忘<sup>わす</sup>れてしまつた。さうだ！ さうだ！ 思<sup>おも</sup>ひ  
出<sup>だ</sup>した。

ヨカナアンの聲<sup>こゑ</sup>。

見<sup>み</sup>い！ 時<sup>じ</sup>刻<sup>く</sup>が来<sup>き</sup>た！ おれの豫<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>して置<sup>お</sup>いた日<sup>ひ</sup>  
がとう／＼やつて来<sup>き</sup>た、神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>がさう云<sup>い</sup>つておいでだ。  
見<sup>み</sup>い！ おれの云<sup>い</sup>つた日<sup>ひ</sup>は今日<sup>けふ</sup>だ。

ヘロヂアス。

あの男<sup>おとこ</sup>を黙<sup>だま</sup>らせて下<sup>くだ</sup>さいませ。私<sup>わたし</sup>しはあの聲<sup>こゑ</sup>をき  
くのがいやで御座<sup>ござ</sup>います。この男<sup>おとこ</sup>は、終<sup>しま</sup>始<sup>はじ</sup>私<sup>わたし</sup>しの惡<sup>わる</sup>  
口<sup>くち</sup>をいつてをります。

ヘロツド。



あれは何にも、お前の悪口などを云つてはゐなかつた。それに、あれは大變えらい豫言者なんだ。

ヘロデアス。

私しは豫言者といふものを信じません。未來でどんなことが起つて來るか、そんなことが人間に分るものでせうか？ 誰にだつて分りはしません。それにあの男は、終始私の悪口ばかりいつてをります。でもあなたはあれを恐がつてゐらつしやいますのね

え。……あなたがあれを恐がつてゐらつしやることは、私しよく知つてゐますわ。

ヘロツド。

おれは、あの男を恐がつてはをらぬ。おれは、誰も恐がつては居ない。

ヘロデアス。

乞度、あなたは、あれを恐がつてゐらつしやいますわ。若し、あなたが、あれを恐がつてゐらつしや

らないなら、半年も前から、あの男を渡して呉れと云つて、わい／＼云つてる猶人達に、なせあなたはお渡しにならないのでせう？

第一の猶太人。

本當に、陛下、私共の手に、あの男をお渡しになりました方が、お宜しう御座りませう。

ヘロツド。

もう澤山だ。おれはもう、そち達には返事をして

やつた。おれは、そち達の手には、あの男を渡しはせぬぞ。あれは聖者だ。あれは神を見たことのある男だ。

第一の猶太人。

そんな筈は御座りませぬ。豫言者エリアスから後には、神様を見たことのあるものはをりませぬ。一番お終に神様を見たのは、エリアスで御座ります。近頃では、神様は姿をお現はしになりませぬ。神様

は隠れておいでなさります。だから、恐ろしい禍が、此の世に出て来たので御座ります。

第二の猶太人。

本當に、あの豫言者エリ阿斯が、神様を見たか、どうかといふことも、誰にも分りは致しませぬ。ひよつとすると、エリ阿斯が見たのは、只神様の影ばかりだつたかも知れませぬ。

第三の猶太人。

いつだつて、神様の隠れてお出でなさる時はありやしない。神様はいつでも、何にでも姿を現はしておいでなさる。神様は善いものゝ中にも悪いものの中にも、同じことに宿つておいでなさるんだ。

第四の猶太人。

そんなことを言つちやならぬ。それは大變危険な説だ。それはギリシヤの哲學を教へて居る、アレキサンドリアの學校から来た説だ。そして、ギリシヤ

人は偶像信者だ。割禮さへ受けちや居ない。

第五の猶太人。

神様といふものは、どんな仕事をなさるか、誰にも分るものじやない。神様のやりかたは、甚だ神秘なものだ。吾々が悪だといつて居るものが、善であるかも知れねば、善だといつてゐるものが悪であるかも知れない。何事も分るものじやない。何しの神様といふものは、大變強いものだから、吾々は必ず

何にでも従はなくちやならない。神様は弱いものでも、強いものでも、同じやうに、滅茶々にしておしまいなさる。神様は誰のことも考へてはおいでなさらないから。

第一の猶太人。

本當にお前のいふ通りだよ。神様は恐いものだ。神様が、強いものでも弱いものでも、打碎いておしまいになることは、丁度、人間が臼に入れて穀物を

搦つかいてるやうなものだ。それはさうと、此男このをこは決けつして神様かみさまを見みたんぢやない。豫言者よげんしゃエリアスこの方かた、神様かみさまを見みたものはありやしない。

ヘロヂアス。

あれ達たちを黙だまらして下くださいませ。退たいくつで御座ございます。

ヘロツド。

(猶太人ユデア人に。)

でも、おれは、あのヨカナアンといふ男をこが、そち等らのいふ豫言者よげんしゃだといふことを聞きいたが。

第一だいいちの猶太人ユデア人。

そんな筈はずは御座ござりません。豫言者よげんしゃエリアスの頃ころからは、もう三百年さんひゃくねん以上いじやうもたつてをります。

ヘロツド。

それでも、此男このをこが豫言者よげんしゃエリアスだといふものがあるかも知れない。

ナザレ人。

たしかに、あの男は、豫言者エリアスで御座りま  
す。

第一の猶太人。

いゝゑ、それでも、あの男は豫言者エリアスでは  
御座りませぬ。

ヨカナアンの聲。

それ、その日が来た、主の日が来た。世界の救済

者たるべき人の足音が、山の上に聞える。

ヘロツド。

あれは何のことだ？ 世界の救済者つて。

チゲリヌス。

あれは羅馬皇帝の稱號で御座ります。

ヘロツド。

然し、羅馬皇帝はユデアへはやつて來ない。たつ  
た昨日、おれは羅馬からの手紙を受取つたばかりだ。

そんなことは何も書いてはなかつた。それから、チゲリヌス、冬中羅馬にゐたお前は、そんなことを何にも聞かなかつた筈だ。聞いたかな？

チゲリヌス。

陛下、そのやうなことは何も承はりませぬ。私くしは稱號のことを申ししたので御座ります。あれは羅馬皇帝の澤山ある稱號の一つで御座ります。

ヘロツド。

然し、羅馬皇帝が來られる筈はない。あの人は痛風がひどいのだ。足は象の足のやうだといふことだ。それからまた、國の事情も澤山ある。羅馬を去るものは羅馬を失ふのだ。あの人は、來やしないだらう。それはシイザアは國王だから、來ようと思へば、來られるだらう。けれども、あの人が、來ようなどとは、おれには思へない。

第一のナザレ人。

豫言者が、あんなことをいつたのは、羅馬皇帝に  
關係したことで御座りません。

ヘロツド。

羅馬皇帝のことではない？

第一のナザレ人。

さうで御座ります、陛下。

ヘロツド。

じゃ、誰のことをいつたのかい。

第一のナザレ人。  
出現なされたばかりの、メシアスのことをいつた  
ので御座ります。

第一の猶太人。

メシアスはまだ現はれやなされぬ。

第一のナザレ人。

メシアスは現はれて來られたんだ。そして今方々  
で、奇蹟を働いて居られる。



へロチアス。

オホホ！ 奇蹟だつて！ わたしは奇蹟なんか信じやしないわ。わたしは、あんまり澤山みたんだもの。

(扨從に。)

わたしの扇をお呉れ！

第一のナザレ人。

その方は本當の奇蹟をなさるので御座ります。だ

から、ちよいととしたガリリイの小さい町にあつた婚禮の席で、あの方は、水を酒にかへられたので御座ります。その席に居た人が私しにそれを話したので御座ります。それからまたあの方は、カペルナウムの門の前に座つて居た、二人の癩病人を、一寸觸つたばかりで、お治しなされたので、御座ります。

第二のナザレ人。

いゝや、カペルナウムで治されたのは、盲目であ

つた。

第一のナザレ人。

いゝや、癩病人だつたよ。然しあの方は盲目も治しなされた。それからあの方は、山の上で天使と話をしておいでなされたんだつて。

サドゥク人。

天使なんてものは居やしないよ。

フアリゼイ人。

天使は居るよ。然し、おれはその人が、天使と話をして居たといふことは本當とは思はぬ。

第一のナザレ人。

あの方が天使と話をして居られるのを、大勢の人が見たのだよ。

サドゥク人。

天使とではないよ。

ヘロヂアス。

此人達は、マア、何といふ退屈なことを云つてるのだらう！ 馬鹿くしい！

(扈從に。)

サア！ わたしの扇をお呉れ！

(扈從扇を妃に渡す。)

お前は夢を見る人の顔附きをしてるのねえ。夢を見てはいけないよ。夢を見るのは病人だけだよ。

(妃扇を以て扈從を打つ。)

第二のナザレ人。

それからまた、マイルスの娘の奇蹟が御座ります。

第一のナザレ人。

さうだ、あれは確かだ。あれはだれでも嘘だとは云へない。

ヘロデアス。

この人達は氣がちがつてゐるのだ。あんまり長い間月を見てゐたのだ、黙るやうに仰つしやつて下さ

りませ。

ヘロツド。

マイルスの娘の奇蹟といふのは、何だね？

第一のナザレ人。

マイルスの娘は、死んで居たので御座ります。あの方はその死んだ娘をお生かしなされたので御座ります。

ヘロツド。

その男は死人を生きもごらせるのか？

第一のナザレ人。

さうで御座ります、陛下。あの方は死人をお生かしなされます。

ヘロツド。

おれは、その男に、そんなことをさせたくない。

おれはその男の、そんなことをするのを禁ずる。死んだものを生かすやうなことは、誰にだつて許しは

せぬ。その男を見つけたして、死人を生かすやうなことは禁ずると、傳へてやらなければならぬ。今何處に居るのだ、その男は？

第二のナザレ人。

あの方は、何處にでもおいでなされます。陛下。けれどもあの方をみつけるのは六ヶ敷いことで御座ります。

第一のナザレ人。

あの方は、今サマリアに居られるといふことで御座ります。

第一の猶太人。

若し、その人がサマリアに居るなら、それがメシアでないといふことは、容易にわかることだ。メシアは、サマリア人の所に現はれて來られる筈はない。サマリア人は呪はれて居るのだ。お寺へ何にもあげたことはありやしない。

第二のナザレ人。

あの方は、二三日前にスミルナをお立ちになつた。今のところでは、エルサレムの近所にをられるだらうと思ふ。

第一のナザレ人。

いや、エルサレムには居られない。おれは今エルサレムから来たばかりだ。二月ばかり、あの方からは何にも便がなかつたのだ。

ヘロツド。

かまやしない！ 兎も角も、あの男を見つけさせて、おれはその男に、死人を生き返へらせることを許さぬと云はせよう！ 水を變へて酒にするとか、癩病人や盲目をなほすとか、………そんなことは自分でしたければしてもいさ。そんなことに對して、おれは何もいひはせぬ。本當に、癩病を治すなんてことは善いことだと思つてる。けれども、死んだものを生き返へらせることは、誰にも許しやせぬ。死

んだものが返つてなんぞ来ては、恐ろしいことだ。

ヨカナアンの聲。

おゝ！ いたづら者！ 賣女！ おゝ！ 金の眼  
と、ぴか／＼する臉をもつた、バビロンの娘！ 神  
様がさうおつしやるぞよ、あの女に對して、澤山の  
人を集まらしてやれ。人々に石を拾つて、投げつけ  
させてやれ。………

ヘロヂアス。

あの男を黙らせて下さりませ。

ヨカナアンの聲。

隊長どもに、劍であの女を刺させてやれ、楯の下  
に壓しつけて、あの女を碎かせてやれ。

ヘロヂアス。

いゝゑ、それでも忌々しう御座います。

ヨカナアンの聲。

かうして、世の中から、ありとある穢らはしいこ

とを拭きとつてしまひたいのだ。そしてあらゆる女が、あの女の罪をまねないやうにしたいものだ。

ヘロヂアス。

わたしに對して、あれの云ふことを御聞きで御座いませう？ 自分の妻を誹する男を、あなたは許してお置きになりますのですか？

ヘロツド。

あの男はお前の名を云いはしなかつた。

それがどうしたといふので御座います？ あの男が誹しらうと思つて、捜してゐるのは、わたしだといふことは、よく御存知の筈で御座います。そして、わたしはあなたの妻で御座います。さうでは御座いませんか？

ヘロヂアス。

ヘロツド。

本當に、可愛いけだかいヘロヂアスや、お前は



れの妻じや。そして、その前には、お前はおれの兄弟の妻であつた。

ヘロヂアス。

あの人の腕から、わたしをおもぎとりなされたのは、あなたで御座います。

ヘロツド。

本當に、おれの方が強かつた。……然し、その話はずまい。おれはその話はしたくない。話したいの

は、豫言者がいつた恐ろしい言葉の原因だ。大方その爲に、不吉なことが起るのかも知れない。いや、このことはもう話さぬことにしてしよう。けだかいヘロヂアスや、お客のことを忘れて居たなあ。こりや、お前おれのコップに一抔ついでくれい、銀の大杯にも、それからガラスの大杯にもついでくれい。おれは羅馬皇帝のために飲まう。此處に羅馬の方々が居られる。一同羅馬皇帝のために飲まなくちやならぬ。

一同。

羅馬皇帝！ シイザア！

ヘロツド。

お前は娘の顔を見ないかい？ 何てまあ蒼い顔だらう。

ヘロヂアス。

あの子が蒼くつても、蒼くなくつても、それがあなたに、どうしたといふので御座います？

ヘロツド。

おれはまだ、あれがあんな蒼い顔をしてるのを見たことがない。

ヘロヂアス。

あなたは、あれをお見詰めなされてはいけません。

ヨカナアンの聲。

その日には、髪の毛の包み布のやうに、太陽が黒くならう。月は血のやうに赤くならう。熱した無花

果が樹から落ちるやうに、天の星屑は地上に落ちるだらう。そして地上の帝王達は恐をなすだらう。

ヘロデアス。

オヤ！ オヤ！ わたしは、あの男のいふやうに、月が血のやうに赤くなつて、星が熟した無花果のやうに落ちるといふ、その目が見たいものだわ。此豫言者は、酔拂ひのいふやうなことをいつてるわ………  
…それでもわたしは、あの聲の響が耐えられないん

ですの。わたしは、あの聲がきらひですわ。黙らせ  
るやうにして下さいました。

ヘロツド。

おれはさうしたくない。あの男のいつてることは、おれには分らない、けれども、あれは何かの前兆であるかも知れない。

ヘロデアス。

わたしは前兆なんか信じませんわ。あの男は酔拂

ひのいふやうなことを云つてゐるんですもの。

ヘロツド。

あの男は、神の葡萄酒に酔はらつてゐるのかもしれない。

ヘロヂアス。

神の葡萄酒つて、どんな酒で御座いますの？ どんな葡萄酒からとるので御座いますの？ どんな酒樽の中でとるのでございますの？

ヘロツド。

(これより、王はのべつにサロメを見つめて居る。)

チゲリヌス、この間羅馬に居られた時分に、皇帝と話されたといふあのことは……？

チゲリヌス。

何のことで御座りますか、陛下？

何のことだつて？ あゝ！ 己はお前さんに何かたづねたのだつたね、さうではなかつたかいの？

お前さんにきかうと思つたことを忘れてしまつたわ  
い。

ヘロデアス。

あなたは、また娘の顔を見つめてばかりゐらつし  
やいます。あの子を御覽なすつてはいけません。も  
うさつきも、さう申しましたのに。

ヘロツド。

お前は、他のことは何にも言やあしないなあ。

ヘロデアス。

わたしは、もう一度それを申します。

ヘロツド。

それから、あのお寺の復舊のことを、みんなが大  
變入ヶ間敷いつて居つたが、あれはどうなるのかね  
え？ 神殿の帳がなくなつたとかいふことだつたが、  
さうではなかつたかねえ？

ヘロデアス。

それを盗んだのは、あなたで御座いました。あなた  
は出鱈目ばかりいつてゐらつしやる。わたしは此  
處に居りたる御座いません。奥へまゐりませう。

ヘロツド。

おれに舞ふて見せい、サロメ。

ヘロヂアス。

わたしは舞はせはしませぬ。

サロメ。

舞ふのは厭で御座います。

ヘロツド。

サロメ、ヘロヂアスの娘、おれに舞ふて見せい。

ヘロヂアス。

打やつといて下さいまし。

ヘロツド。

サロメ、おれは、お前に舞へと命ずる。

サロメ。

あたし、舞ふのは厭で御座います。

ヘロヂアス。

(笑つて。)

ねえ、あなたの仰をよくききますでせう。

ヘロツド。

あれが舞はうと舞うまいと、それがおれに何だ？  
何でもないことだ。今夜はおれは愉快じや、おれは  
非常に愉快じや。おれはこれまで、こんな心持のよ

かつたことはない。

### 第一の兵士。

王様は陰気な顔をしておいでなさる。陰気な顔をして  
おいでなさるではないか？

### 第二の兵士。

さうだ、陰気な顔をしておいでなさるなあ。

ヘロツド。

どうして、おれが愉快でなからうか？ 世界の主

であり、萬物の主である羅馬皇帝が、よくおれを可愛がつて下さるのだもの、丁度今、此おれに、至つて貴とい贈物をしてくれられたところだ。それからまた、おれの敵であるカツパドシアの王を、羅馬へ呼寄せることを約束してくれられた。ひよつとするど、あの王を、羅馬で磔刑にでもするといふのかも知れない。羅馬皇帝は、自分のしたいと思ふことはなんでもするとが出来るのだから。本當に羅馬皇帝は君主だ。だから、おれが愉快な理由が分るだらう。

本當におれは愉快なんだ。おれは今まで、此んな愉快だつたことはない。おれの幸福を傷けることの出来るものは、世の中に何にもありやしない。

ヨカナアンの聲。

あれは此玉座に座つて居よう。緋と紫の衣をきて居よう。手には、自分の身の誹謗の湛えた金のコップをもつて居よう。そして主の御使に打碎かれてしまはう。蛆蟲に食はれてしまはう。



ヘロヂアス。

あの男が、あなたのことを云つてゐるのを、おき  
しで御座いませうね。蛆蟲に食はれておしまひなさ  
るといつて居ります。

ヘロツド。

あれの云つてゐるのは、おれのことではない。あ  
の男は、決しておれの悪口はいはない。あれのいつ  
てゐるのは、カツパドシアの王のことだ。おれの敵

であるカツパドシアの王のことだ。蛆蟲に食はれる  
といふのは、あの王のことだ。おれのことではない。  
おれが、兄弟の妻を妻にしたこと以外には、此豫言  
者は、まだついぞおれの悪口をいつたことはない。  
それは、あの男のいふ通りかも知らない。なせだつ  
て、本當をいへば、お前は石女だからなあ。

ヘロヂアス。

わたしが石女ですと？ あなたがそれを仰つしや

るのねえ、終始わたしの娘ばかり見てゐらつしや  
 るあなたが、御自分の慰みのために、あれを舞はせ  
 ようとなさるあなたがねえ？ それを仰つしやられ  
 た義理では御座いますまい。わたしは一人は子供を  
 生んだので御座いますよ。あなたに子供がないので  
 御座いますよ。いゝゑ。おつきのものにも、一人も  
 子供がないので御座いますのねえ。うます女といふ  
 のは、あなたのことと御座います。わたしでは御座  
 いませんわ。

へロツド。

黙れ！ 女！ お前はたしかに石女だよ。おれの  
 子供は、お前には一人も出来なかつた。そしておれ  
 達の結婚は、本當の結婚ではないと、豫言者がいつ  
 て居る。道に外れた結婚、禍の起る結婚だといつて  
 居る。……あれのいふ通りかも知れない。乞度あの  
 男のいふ通りだ。でも今はそんなことを云つてゐる  
 時ではない。おれは今愉快でありたいのだ。本當

に、おれは愉快だ。物足らないと思ふことは何にもない。

ヘロデアス。

今夜、あなたが、それほど上機嫌でゐらつしやるのは、わたし嬉しう御座います。いつもはさうではおありなさらないんですもの。でも、もう晩う御座います。奥へまゐりませう。明日は日の出がたに、獵に出るのだといふことをお忘れになりますな。羅

馬皇帝の使者達に、出来る限りの敬意を表しなればなりませぬ、さうでは御座いませぬか？

第二の兵士。

何てマア、王様は陰氣な顔をしてゐらつしやるだらうなあ。

第一の兵士。

さうだ、陰氣な顔をしてゐらつしやるな。

ヘロツド。

サロメ、サロメ、おれに舞うて見せい。頼むから舞うて見せい。今夜はおれは悲しい。さうだ、おれは今夜は悲うてならぬ。おれは此處へ来た時に、吉相の悪い血を踏んだ。それから、空には羽音のするのを聞いた、たしかに巨い羽音をきいた。おれには何のことやら分らぬ。……今夜はおれは悲しいのだ。だから、おれのために舞うてくれい。おれの爲めに舞うてくれい、サロメ、頼むから。そちがおれのた

めに舞うて見せりや、何でも欲しいと思ふものをいへ、この國の半分でも、お前にやるわ。

サロメ。

(立つて。)

本當にあたしの欲しいものを、なんでも下さるの  
でせうか？

ヘロヂアス。

舞ふのではありませんよ、サロメや。